

YNUコミュニティカレッジ



YOMIURI  YNU

『これからの都市に求められる イノベーションとは』



主 催：横浜国立大学公開講座委員会
共 催：読売新聞横浜支局

『これからの都市に求められるイノベーションとは』

第1回 10月19日(土) I:13:00~14:30(質疑応答含む) II:14:40~16:10(質疑応答含む) 司会進行 長谷川 秀樹 (大学院都市イノベーション研究院 准教授)

I. 『モーツァルトの街』ザルツブルクの誕生 ～政治と観光と文化がもたらした一地方都市の再生～

オーストリアの古都ザルツブルクは、モーツァルトの顔を包装にあしらったチョコレートや、モーツァルトの生家などを観光政策の目玉にかかげ、「モーツァルトの街」として、さらにはザルツブルク音楽祭をはじめとする「芸術の街」として世界中に知られています。ところがこの街がそのような存在へと変貌を遂げるにあたっては、既にモーツァルトが世を去ってからおよそ50年もの日々が経っていました。19世紀から現代にまで至る政治的・社会的な背景を追いながら、ザルツブルクが世界の中でも代表的な観光都市へと成長していった過程、またザルツブルクがモーツァルトを「再発見」していった道のりを追うことで、都市の観光政策や文化政策の一例に迫ります。



横浜国立大学
大学院都市イノベーション研究院
准教授
小宮 正安

II. 都市計画とイノベーション：過去・現在・未来

『都市は人類最高の発明である』(エドワード・グレイザー著)といわれるように、古代以来進化をつづけてきた都市とイノベーションとは不可分の関係にあります。今回の講座では、私がこの2年間に公式ブログ(地域が連携し「住みたい都市」をプロデュースする)に発表してきた『都市イノベーション読本』の100の話題をもとに、都市計画の立場から、都市とイノベーションの関係についてさまざまな角度から探っていきます。たとえば技術・動力の発明・発達によって都市は著しく変化し、現在、通信技術の進化により私たちの生活そのものも大きく変化しつつあります。都市計画は、現在の課題認識を踏まえながらも、将来の都市の具体的なありかたを考え提起する分野です。「現在」とは「過去」が堆積した結果でもあり、未来を考えることは歴史を考えることでもあります。過去・現在・未来を行き来しながら都市のこれからを考えてみたいと思います。

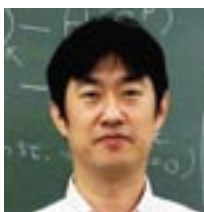


横浜国立大学
大学院都市イノベーション研究院
教授
高見沢 実

第2回 11月9日(土) I:13:00~14:30(質疑応答含む) II:14:40~16:10(質疑応答含む) 司会進行 長谷川 秀樹 (大学院都市イノベーション研究院 准教授)

I. 横浜の地盤災害と防災

急激な都市の成長に伴って、横浜の人々の生活は山間部や臨海部に拡大してきました。そのため、梅雨時や台風などで大雨が降ると、崖崩れや地すべりなどの災害が起きたり、地震によって液状化が発生して建物に大きな被害が生じたり、様々な課題が指摘されています。液状化の心配はありませんか？大雨のときに土砂崩れは心配ないですか？今回の講座では、横浜の地盤と災害について、丘陵地や臨海部の土地開発やそれに伴う災害とメカニズム、対策法の具体例を挙げながらお話ししたいと思います。



横浜国立大学
大学院都市イノベーション研究院
准教授
菊本 統

II. 安全・快適のための道路交通マネジメント

自動車をはじめ、自転車・歩行者を含む道路交通は、私たちの毎日の生活になくてはならないものですが、交通事故や交通渋滞、排出ガスといった様々な課題を抱えています。大規模な新規投資が難しい近年の社会情勢の中、こうした問題を改善し安全で快適な道路交通を実現するためには、道路インフラとそれを利用する車両や歩行者の間での資源のやりくりや調整を行うこと＝マネジメントが不可欠です。今回の講座では、上記のような道路交通の課題を科学的に理解する方法を説明した上で、これを解決するための交通マネジメントについて、実例を交えて紹介します。また、そのための有効な手段であるITS(高度道路交通システム)についても、最新の情報を紹介します。



横浜国立大学
大学院都市イノベーション研究院
准教授
田中 伸治

コーディネーター

今回の公開講座「これからの都市に求められるイノベーションとは」は、平成23年度に新設された大学院、都市イノベーション研究院所属の教員を中心に、都市にかかわる関連他学部・他研究科の教員も加わった4日間8回で構成される、都市とその課題、さらには将来像について建築学や土木工学、都市計画論、開発経済学、地域経済論、文化史など文理双方の系から多角的な観点で考察する試みです。横浜・神奈川を中心に国内外の他都市との比較も交え、イノベーションの可能性をともに探っていただければと考えております。



横浜国立大学
大学院都市イノベーション研究院
准教授
長谷川 秀樹

第3回 11月16日(土) I:13:00~14:30(質疑応答含む) II:14:40~16:10(質疑応答含む) 司会進行 白水 紀子 (大学院都市イノベーション研究院 教授)

I. ラテンアメリカ・パラグアイ入門：地球市民として生きる

パラグアイ共和国をご存じでしょうか？南米大陸のおへそに位置する人口660万人、日本の国土1.1倍の国です。2010年のワールドカップで日本と対戦したので記憶に新しい方も多いかもしれませんが。この国には現在7000人の日系人が居住し、ビジネスに成功した方も多くみられます。一方、国連の人間開発指数では187国中107位(2011年)、都市と農村の格差が大きな国でもあります。人口の5割が農村に居住し、その多くが貧困層です。本講座では日本から一番遠い国パラグアイについて植民地・日系人移住・経済開発等の歴史を踏まえながら、貧困地域で生きる農民たちのくらしを紹介するとともに、パラグアイの方々(のみならず世界の方々)とこの地球上で共に生きることについて考えてみたいと思います。



横浜国立大学
大学院都市イノベーション研究院
教授
藤掛 洋子

II. これからの都市の生態系と管理

都市に住む人間も生態系から恵みを受けながら生活しています。身近な環境として森林があると、夏の日中は涼しく、また冬の夜には冷えにくくなります。野菜や肉は栽培や飼育をしたものが多いのですが、食卓にのぼる魚の多くは、今でも野生生物を捕獲してきたものです。たとえば養殖魚であっても餌には野生生物のイワシなどを使っています。人間も生物の一種であり、さまざまな野生生物と同じく都市化の影響を受けています。人間が巨大な都市に住むようになったのはたかだか百年程度前からであり、都市は野生生物だけでなく人間にとっても、進化的に想定されていなかった環境です。この講演では、人間と野生生物が共存できるまちづくりや地域づくりについて考えたいと思います。



横浜国立大学
大学院環境情報研究院
教授
小池 文人

第4回 11月30日(土) I:13:00~14:30(質疑応答含む) II:14:40~16:10(質疑応答含む) 司会進行 長谷川 秀樹 (大学院都市イノベーション研究院 准教授)

I. 神奈川県の実経済・環境政策と家計・くらし

神奈川県は、人口の規模でみた場合に、東京都や大阪府に匹敵する都市ですが、その経済を含む都市機能の面では必ずしも大都市とはいえません。本講ではまず、神奈川県の地域経済の特徴を、東京をはじめとする地域間の中での明らかにしつつ、県の経済が、内需、投資、輸出などのいかなる要因を主としたものであるのかも示します。また、県のくらしにかかわる選択肢として、TPPなどの自由貿易協定への参加・不参加、脱原発・エネルギー選択、規制緩和・公共投資などの効果がどの程度であるのかを明らかにします。また税の使い道をどう決めるかが家計にもたらす影響を示しつつ、新しい福祉・環境重視型の都市のあり方を考えます。



横浜国立大学
大学院国際社会科学研究院
准教授
氏川 恵次

II. これからの都市のエネルギーシステム

都市のエネルギーをいかにデザインするか。これからの都市に求められるイノベーションの一つです。エネルギーは見えませんが、私たちの生活・活動を支え、安全で健康・快適な質の高い空間の実現に不可欠です。エネルギーと熱は一体で、使ったエネルギーは熱になります。そのエネルギー・熱を見えるようにし、地球環境問題による気候変動、地域の極端気象のこれ以上の悪化につながらないようエネルギーを高度利用し、排熱によるヒートアイランドでそれを助長しないようマネジメントが必要です。また、地震国日本では、供給が途絶えないための工夫が重要です。どのようにして、それを実現するのでしょうか。まだ、多くの研究が必要ですが、これまでわかってきたことについてお話しします。



横浜国立大学
大学院都市イノベーション研究院
教授
佐土原 聡

横浜は日本有数の都市です。都市ならではの先進性を多く持つ街です。反面、現在から将来にわたる課題もあるでしょう。文化、経済、安心・安全、環境など多岐にわたる観点から横浜国立大学は都市を考え、今後も持続的に発展することに寄与しています。

読売新聞横浜支局と共催するYY講座はこれまでも社会における重大事、関心事に的を当てて実施してきました。本年は地元横浜、日本、新興国など世界で今後益々、解決へ向けた道筋が期待されている都市のイノベーションがテーマとなっています。地域の問題から地球規模の課題まで一緒に検討する場となれば幸いです。



横浜国立大学長
鈴木 邦雄



読売新聞横浜支局長
塚田 牧男

「都市は生き物」と言います。横浜市はみなとみらい地区の着工から30年を迎えました。折しも私鉄・地下鉄の相互乗り入れが始まり、埼玉県や都心からの人の流れが大きく変わりました。各地で大型商業施設や住居群の新設、改装の動きも伝わってきます。

日々変貌をとげる姿をどうとらえるか。文化、自然生態系から交通、エネルギー、防災まで様々な面から手がかりを教えてくれるのが今回のシリーズです。4年目を迎えた「YY講座」。横浜国立大の「知」の先達から、都市のイノベーション、いわば「成長戦略」を学びながら、みなさんの成長戦略にお役立てください。

参加費は無料です。たくさんの方の受講をお待ちしております。

開催日時	10月19日(土)、11月9日(土)、11月16日(土)、11月30日(土) 13:00~16:10(受付は12:30より)
会場	横浜国立大学 教育文化ホール大集会室
受講対象	一般の方
受講定員	300名
受付期間	平成25年8月1日(木)~9月30日(月) ※先着順、定員に達し次第受付を終了いたします。
申込方法	横浜国立大学WEBサイト http://www.ynu.ac.jp/hus/koho/9235/detail.html からオンラインでお申込ができます。その他、FAX・郵送にてお申込ができます。(電話でのお申込は受付しておりません。)下記項目を記載の上お申込ください。 ・お名前・フリガナ・E-mailアドレス(お持ちの場合)・性別・生年月日・ご住所・電話番号・FAX番号・ご職業・ 次年度以降の本学公開講座案内の送付希望の有無 お申込をいただいた方には、ご案内を送付いたします。 ※お知らせいただいた個人情報、公開講座受講にあたって必要な連絡、今後の公開講座案内等の送付及び、今後の公開講座運営上の参考にするための統計資料作成以外には使用いたしません。

● ご来場の際は公共交通機関をご利用願います ●

【申込・問合せ先】

横浜国立大学 総務部 広報・渉外室 広報係 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79番1号
TEL:045-339-3016 FAX:045-339-3179 E-mail:koho@ynu.ac.jp

横浜国立大学常盤台キャンパスへの交通案内



- 横浜市営地下鉄線 三ツ沢上町駅下車→徒歩約16分で大学正門へ
- 相模鉄道線 和田町駅下車→徒歩約20分で大学南門・南通用門へ
- JR等 横浜駅下車→横浜駅西口より下記のバスに乗車→大学各門へ

【横浜駅西口からバス】 詳細は、www.ynu.ac.jp/access/index.html

●横浜市営バス

乗場	行き先	下車停留所	大学への入口
⑪	循環外回り 202系統	横浜新道又は岡沢町	南通用門・正門
⑭	循環内回り 201系統	岡沢町又は横浜新道	正門・南通用門

●相鉄バス

乗場	行き先	下車停留所	大学への入口
⑩	交通裁判所経由 横浜駅西口	岡沢町	正門
⑨	釜台住宅第3 釜台経由 上星川駅	ひじりが丘又は釜台住宅第1/第2	北門・西門

●神奈中バス

乗場	行き先	下車停留所	大学への入口
⑭	中山駅	岡沢町又は横浜新道	正門・南通用門

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University

総務部広報・渉外室

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1
TEL:045-339-3016 FAX:045-339-3179
E-mail:koho@ynu.ac.jp